

みらいのかぞくプロジェクト  
**トークイベント「あなたはどこまでやりますか？」**  
**～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～**  
2016年5月29日(日)開催

にっぽんかがくみらいかん

日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)は、2016年5月29日(日)に、トークイベント「あなたはどこまでやりますか？～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～」を開催します。

数年前に登場した「ゲノム編集」の技術は、従来の遺伝子組換え技術よりも格段に効率よく、狙った遺伝子を改変することが可能です。その効率の高さから、ヒトの受精卵への応用も現実味を帯びてきました。遺伝病の根治につながるという期待がある一方で、人為的な遺伝子改変が子々孫々の代に引き継がれていくことを懸念する声もあります。

本イベントでは、ゲノム編集とはどのような技術か、その技術によって自分の子や子孫の遺伝子をどこまで改変してよいのかについて、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議 生命倫理専門調査会の委員である、阿久津英憲氏と武藤香織氏を迎え、遺伝性の難病の方々も交えてディスカッションします。

ぜひ貴媒体にてご掲載、ご取材いただきますようお願い申し上げます。

**【概要】**

タイトル トークイベント「あなたはどこまでやりますか？～ヒト受精卵へのゲノム編集を考える～」

日時 2016年5月29日(日) 13:00～15:00(12:30 開場)

会場 日本科学未来館 7階 会議室3

参加費 無料

申込方法 要事前申込。日本科学未来館ウェブサイト上の申込フォームからお申込ください。(定員 80名)

<http://www.miraikanjst.go.jp/event/1604201419894.html>

主催 日本科学未来館

**【プログラム】**

## 1. 基調講演「ヒトの発生とゲノム編集」

阿久津英憲氏(国立成育医療研究センター研究所 部長)

## 2. 基調講演「『ヒト受精卵へのゲノム編集』の可能性と課題」

武藤香織氏(東京大学医科学研究所 公共政策研究分野 教授)

## 3. 客席を交えたディスカッション

「ゲノム編集、あなたはどこまでやりますか？」

～家族・子孫・人類の視点から～

※遺伝性の難病の患者さんにコメンテーターとして

参加していただく予定です。



阿久津英憲氏(左)、武藤香織氏(右)

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL <a href="http://www.miraikanjst.go.jp/">http://www.miraikanjst.go.jp/</a>	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: <a href="mailto:press@miraikanjst.go.jp">press@miraikanjst.go.jp</a> TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

---

## 講師プロフィール

**阿久津英憲氏**(国立成育医療研究センター研究所 再生医療センター生殖医療研究部 部長)

95年に弘前大学医学部を卒業。99年から2年間半、ハワイ大学医学部柳町隆造研究室研究員。2002年、福島県立医科大学で博士号を取得し、産婦人科助手になる。米国国立老化研究所遺伝学研究室研究員、ハーバード大学分子細胞生物学部研究員を経て、05年より国立成育医療研究センター研究所に勤務。

**武藤香織氏**(東京大学医科学研究所 公共政策研究分野 教授)

2002年博士(保健学)取得。2013年より現職。家族と縁の深い医療や医学研究の現場や政策を調査研究。特に、被験者、患者、障害者の立場からみた課題を抽出し、研究や医療という営みに少しでも主体的な参画ができるようにするための研究に力を注いでいる。

---

## 関連イベント

サイエンス・ミニトーク「あなたはどこまでやりますか? ~ヒト受精卵へのゲノム編集を考える~」

「ゲノム編集とは何か」「どういうことができるのか」「どういう懸念があるのか」を科学コミュニケーターが15分でわかりやすく説明します。

日時: 2016年4月27日(水) 15:30-15:45 / 4月30日(土) 10:30-10:45

場所: 日本科学未来館 5階 常設展 アクティビティスペース「コ・スタジオ」

参加方法: 事前申込不要。直接会場にお越しください。

参加費: 日本科学未来館の入館料のみ(大人 620円、18歳以下 210円)

---

## みらいのかぞくプロジェクト

「一般的な家族」とはどういうものでしょうか。近年、価値観の多様化や科学技術の発達などによって、さまざまな新しい「家族のかたち」が現れてきています。これまでの養子縁組や事実婚などに加え、この数年、同性婚を社会的に認めるかどうかという議論が世界中で活発になり、日本でも複数の自治体が同姓カップルをパートナーとして「認定」する条件を制定しました。一方、家族のかたちやあり方を大きく変えうる新しい科学技術が生まれつつあります。幹細胞技術により、同性同士でお互いの遺伝子を受け継ぐ子どもをもうけたり、新しい遺伝子操作技術「ゲノム編集」により遺伝情報を書き換えたりすることが技術的には可能になるかもしれません。このような状況のもと、家族のかたちやあり方に関わ

る科学技術について、すでに実用化されている技術も、いずれは実用化が可能とみられる技術も、その使い方やメリットデメリット(リスク)を社会全体で考えて行く必要があります。このような問題について、科学技術がもたらす変化や可能性を切り口に、家族に関わる社会学・文化人類学的側面や制度のあり方、個々人の心持ちも含めて議論することにより、多様性を認めつつ皆が幸せに暮らせる社会に向かうきっかけをつくっていくのが、このプロジェクトのミッションです。

